

第4回富山市まち・ひと・しごと総合戦略会議 議事要旨

日時：平成29年10月13日（金）14:00～15:55

場所：富山市役所 研修室

出席委員：（順不同）

宮田 伸朗	富山短期大学 学長 （議長）
井上かおり	全日本空輸株式会社富山支店 支店長
神川 康子	富山大学理事・副学長
酒井 富夫	富山大学研究推進機構極東地域研究センター 教授
舘 良一	株式会社シー・エー・ピー代表取締役 会長
長尾 治明	富山国際大学現代社会学部 教授
中村 和之	富山大学経済学部 学部長
野尻 昭一	社会福祉法人富山市社会福祉協議会 会長
原 保広	富山公共職業安定所 所長
松井 竹史	富山市薬業推進協会 会長
松田 智生	株式会社三菱総合研究所 主席研究員
翠田 章男	富山商工会議所 副会頭

要旨のポイント

- ・ 連携中枢都市圏は、非常に大事な取り組みだと思うので、実質的なものになるよう進めてもらいたい。
- ・ 富山のイメージはまさに薬であり、富山の資源である薬を活用したコンテンツが必要ではないか。
- ・ 富山のコンパクトシティと観光を結び付ける施策が必要である。
- ・ レストラン等における多言語表記に取り組み、受け入れ態勢の強化を図ってほしい。
- ・ エゴマについて、消費、需要を増やしていく取り組みも考えていくべきである。
- ・ 戦略と目標が住民にも分かるようにして、関心度を高めていくことが大切である。
- ・ 住民一人ひとりが自信とプライドを持てるように、情報の共有化ができるように工夫してほしい。
- ・ 新しい人の流れをつくる施策として、『逆参勤交代構想』を提案する。ぜひ富山市に先行都市として取り組んでもらいたい。
- ・ 中央通りを再開発という形ではなく、若者や起業を考えている者にチャンスを与えられる方法で周辺を巻き込みながら再生させてほしい。
- ・ 様々取り組んでいる雇用施策について、市とハローワークが連携した取り組みをしていくべき。

議事内容：

1. 開会

○委員長の選出については、「富山市まち・ひと・しごと総合戦略会議設置要綱」第2条第4項の規定により、宮田伸朗委員を選出した。

2. 資料説明

○資料1・2にもとづき「富山市まち・ひと・しごと総合戦略の改訂（案）」、資料3にもとづき「富山広域連携中枢都市圏の形成について」、資料4・5にもとづき「富山市まち・ひと・しごと総合戦略の取組状況」を事務局より説明した。

3. 意見交換

(1) 富山市まち・ひと・しごと総合戦略の改訂（案）について

(2) 富山市まち・ひと・しごと総合戦略の取組状況

委員

- ・ 連携中枢都市圏の形成について、これまでのコンパクトシティの取り組みと方向性が少し違っているのではないかという気がするが、どのように考えているのか。

事務局（企画管理部）

- 連携中枢都市圏については、従来の市町村合併とは違い、基本的には、市域を越えた圏域全体の魅力を高め、一定の圏域人口を維持することが目的である。
中核市である本市が、圏域全体あるいは富山県全体の発展に寄与していく責務があるという考えから、例えば、圏域住民が富山市にある施設を利用できるようにする等、メリットを享受できるような取り組みを考えている。中心市街地活性化や公共交通沿線の居住推進というのは、本市の施策であるが、もう少し大きい、ブロック全体の発展を目指している。具体的な中身については有識者等の意見を踏まえながら、年内に策定する予定である。

委員

- ・ 連携中枢都市圏は、非常に大事な取り組みだと思うので、実質的なものになるよう進めてもらいたい。
- ・ 大規模な公共施設のマネジメントや広域的な産業、観光の連携では、いい取り組みがある。

委員

- ・ 人口が減っていくことを考えると、有用な機能というのは1つで十分賄えるのではないか。
- ・ 行政として市町村合併は一区切りついたことから、必要な部分だけをお互いに連携しようという考え方でいけば、いい取り組みではないかと思う。
- ・ 8ページの「農林水産業の成長産業化」について、エゴマを使ったオイルは健康に効果があるし、需要が多ければ、それを栽培する中山間地域の活性化にもつながるのではないかと期待している。
- ・ 将来的には、どれくらい生産して、どれくらい提供していけるのか、見通しを聞かせてほしい。

事務局（農林水産部）

- ▶ エゴマの栽培面積について、昨年度実績は約 15 ヘクタールほどで、今年度は約 20.8 ヘクタールが見込まれている。
- ▶ 増加の主な要因は、大沢野塩地区で実施している県営土地改良事業について一部完成したことによるものである。大山地域や山田地域でも作付けが大きく拡大している。
- ▶ エゴマ油のカプセル工場の 6 次産業化に必要とされる栽培面積 70 ヘクタールについて、概ね平成 33 年度までにその半分にあたる 35 ヘクタールを目標として掲げている。
- ▶ 今年度は大沢野塩地区の残りが完成し、新たに約 12 ヘクタールのエゴマが栽培される予定であることから、目標年度の 33 年度までには約 35 ヘクタールが栽培されると考えている。

事務局（環境部）

- ▶ エゴマの葉やオイルも直接販売しているが、エゴマを使った関連商品も出てきている。
- ▶ 葉を練りこんだうどんやエゴマを使ったドレッシング、エゴマの実を使ったどら焼き、搾油かすを使ったふりかけなど、民間企業で少しずつ広がりが出てきている。

委員

- ・ 農福連携や中高年の活用等、担い手の確保についてはどうか。

事務局（農林水産部）

- ▶ 農福連携については色々議論されているところである。
- ▶ 大沢野塩地区では、農福連携ではないが、障害関係の団体の方が携わっている。そういった方と農業をどのようにマッチングさせていくかが課題であり、模索しているところである。

委員

- ・ 今の農業は、担い手、事業主体、経営主体といった観点が少し弱いため、農業経営をどうするのかを意識して目標をしっかり持ったほうがいい。
- ・ 新しい作物の栽培や加工に関して、どれくらい雇用があるのかというところが見えない。

委員

- ・ 富山のイメージはまさに薬であり、富山の資源である薬を活用したコンテンツが必要ではないか。
- ・ リスボンのファルマシー博物館という薬の博物館を視察した際、富山から提供された配置薬に関する歴史的な品物が展示してあった。ポルトガルは、大航海時代のフロントランナーで、その時代に疫病対策として薬が発達した。こうした背景もあって薬に関する博物館ができています。
- ・ もう少し広く考えると、エゴマや薬用植物ということにも繋がるし、いろんな資源の活用が可能になってくるのではないかと思います。
- ・ 薬は、富山に非常に大きなクラスターを作っている産業であり、産業観光の一つのステーションという意味でも裾野が広いだけに、意味が深いのではないかと思います。

事務局（商工労働部）

- ▶ 本市における産業の発展は、薬から始まっていると認識している。
- ▶ 薬膳や薬関係のスイーツ等、いろんなコンテンツを広めていこうと市でも考えており、さらにいろんな媒体を活用して、首都圏でも「薬の富山」を広めていこうと考えている。
- ▶ 産業観光については、市の観光プランにも位置づけており、商工会議所と連携し、観光資源を活用しながら交流人口を増やしていきたい。

委員

- ・ レガートスクエアで薬を意識した事業展開があったと思うが、あれではまだ弱いということか。

事務局（商工労働部）

- ▶ 県外の方からのご意見を聞くと、薬膳は「苦い」というイメージがある。価格も高いというご意見も伺っているので、どうすれば皆さんに取り入れられるようになるかを勉強していきたい。

委員

- ・ 商品開発といったところにも課題はあるかと思う。コンビニでも並ぶようになればいいと思う。

委員

- ・ 常々申し上げているが、駅前近辺や中心市街地には、薬に関する施設がないので、そういう施設を作っていただきたい。
- ・ 薬だけでなく、関連産業が発展してきたことも全部ひっくるめて、富山へ行けば薬のことがみんな分かるという場があればいいと思う。
- ・ 歴史的な資料については、今のうちに集めないと、いずれバラバラになって消失していくため、早めに収集をお願いしたい。

委員

- ・ 池田屋安兵衛商店に、中国の方が「日本の薬は確かだ」と言って、みなさん買いに来るが、バスが道路にしか停められず、2台、3台と停まっているのはどうかと思う。
- ・ どこかを拠点として、観光ができて、美味しい物も食べられるといった、富山のコンパクトシティと観光を結び付けると、もっと発展していけるのではないか。(3~4時間で回れる観光ルート)
- ・ レストランに多言語表記がいっさいなく、通訳をつけないとレストランにも居酒屋にもいけないという状況がある。富山市が中心になって、受け入れ態勢の強化を図ってほしい。

委員

- ・ 観光ルートや広域ルート、着地型の観光ルートを作ろうという計画は、総合計画の中でも話し合われているが、問題は、具体的に関係業者等がどういうふうに行っていくかという部分において、業者自身をもっと積極的にやっていくべきだと思う。

- ・ この意見・考えは、総合計画の中にも盛り込まれているので、実施を迅速に、どういうふうにやっ
ていくかということではないかと思う。

事務局（商工労働部）

- 外国から来られる方の受け入れ態勢の整備については、外国語表示や半日、1日観光ルート等、
モデル的なものに取り組んでいる。しかし、行政だけでできるものではなく、企業の方々とど
のようにすれぱうまくできるのか、というところが大事だと思うので、企業や関係団体と一緒
に取り組んでいきたい。

委員

- ・ 最近ではプラットフォームを作って、関係者が具体的に展開していくという形態があるが、そのよう
なプラットフォーム的なものはあるか。

事務局（商工労働部）

- 現在、県でもDMOという公益社団法人において、富山市だけということではなく、県全体と
して観光資源を掘り下げて、首都圏等に効果的にPRしている。
- Wi-Fiの整備といったことも含めて、県全体として取り組んでいきたい。

委員

- ・ まず、富山市が取り組まなければいけない。
- ・ DMOは、富山市だけでなく、県内のバランスを考慮するので、富山市がリードしてもらいたい。

委員

- ・ 県は広域的にしか見ないのではないかなという心配がある。市独自のいいものをつくるべきである。

事務局（商工労働部）

- 県外から来られた方からは、富山のまちが非常にきれいだと言われる。駅前もきれいになり、
道路にゴミも落ちていない。西町には図書館やガラス美術館もでき、駅北の環水公園、県の美
術館もでき、非常にまとまってきたと思うと同時に、ポテンシャルが上がってきていると認識
している。

委員

- ・ エゴマに関して、今後、需要を増やしていくという市場側の方から、研究開発や商品開発をしてい
くべきである。
- ・ 生産場所をいくら増やしたとしても、商品が買われなければ生産者も増えないと思う。
- ・ 需要を増やしていくためにも、エゴマのブランド化を最初から意識して、商品名あたりの体系化も
最初から考えていくべきである。
- ・ 今の時代、市民を巻き込んでいくというのが重要な視点であるため、総合戦略の内容、施策の効果、

指標の検証等について、住民にも分かるようにしていくと関心度も高まっていくと思う。

- ・ 住民の一人ひとりが自信とプライドを持てるように、情報の共有化ができるように工夫してほしい。

事務局（企画管理部）

- 市民の方、あるいは地域の方に、全体としてこういう取り組みをしているということ、より効率的にお届けできるような方法について、もう少し研究したい。
- エゴマについては、富山大学とイタリアの食科学大学との共同研究において、オリーブオイルとエゴマオイルを効果的に配分したミックスオイルを開発し、市長が自らトップセールスとしてイタリアに行っている。
- 名古屋市立大学や富山大学の協力によって、例えば肝がんなどに対して有効な効果があるということについても、アカデミックなところでエビデンスとして少しずつ成果となって出てくるのではないかと期待している。
- 大手コンビニチェーンとエゴマを使った商品化にも取り組んでおり、エゴマの認知度を高め、消費者にエゴマが素晴らしいものだということを、シティプロモーションということも含めて、これからしっかり取り組んでいきたい。

4. 資料説明

○資料 6 にもとづき地方創生推進関連交付金を活用した取り組み、資料 7 にもとづき地方創生関連交付金事業の概要について、事務局より説明した。

5. 意見交換

(3) 国の地方創生関連交付金を活用した取り組みについて

委員

- ・ 逆参勤交代構想を提案したい。
- ・ 逆参勤交代は、首都圏の企業の方が、地方で期間限定のリモートワークをするということである。
- ・ 移住や転職は、すぐには不可能だが、今はパソコンがあって電話があればどこでも仕事ができる。例えば、週 4 日自社の仕事をして、週 1 日は富山市のために働く、あるいは商工会のために働く、あるいはエゴマのブランディング化のために働くといったようなことも可能である。
- ・ 富山市にとっては、圧倒的に交流人口が増え、地域の担い手になる。
- ・ 参勤交代により、江戸に藩邸ができ、街道や宿場町が整備されたように、富山でオフィスや住まいの需要、移動交通の活性化、さらには空き家のリノベーションといったものが出てくる。
- ・ 地方創生の政策を少しぶっ飛んだものでやらない限り、改革にはならないと思う。
- ・ これは富山にとって、圧倒的な雇用やビジネスチャンスになる。

事務局（企画管理部）

- 非常にお話しは面白いと思う。これは、ゆっくり、じっくり考えていると、どこかがやるのか。スピード感は必要か。

委員

- ・ 先にやったものに先行者利益があると思っている。
- ・ 国のまち・ひと・しごと創生本部には、プロフェッショナル人材派遣事業や地域おこし協力隊といった施策、パッケージがあるので、活用してもらいたいと言っていた。

事務局（企画管理部）

- まずは、どのようなことが取り組めるのか検討していきたい。

委員

- ・ これをやったら新しい人の流れや産業政策等の課題を同時に解決できる。
- ・ 空き家などのリノベーションができる。あるいは、これに関わるものとして、ホテルの一部をミニオフィスにするとか、航空会社では、昼間の空いている時間帯の一部を割引する等といった斬新なアイデアを組み合わせ型で作ると、地方創生と働き方改革を同時に解決できる。

委員

- ・ 中央通りが何とかならないかということで、ものすごく懸念している。
- ・ なんとか再生しないと、面白いまちだと思ってもらえないし、安心して歩けるまちだと思えない。
- ・ その中でエゴマや薬ということで、中央通りにそういうものがないか。
例えば、シャッターを閉めている店をリノベーションし、エゴマ料理を食べられる店や、薬にまつわるいろんな物を販売できるような店にするなどして、池田屋安兵衛商店、廣貫堂などとの一連の流れみたいなものができれば、随分違ってくると思う。
- ・ シャッターを閉めているほうが、税金が安いという話がある。
- ・ もっと安くお店が貸せる、リノベーションができるというふうになれば、若者の出店や新しいアイデアを実験的にやってもらえるような商店街ができるのではないか。

事務局（都市整備部）

- 中央通りについては、シャッターを閉めている店が多い状況である。
- 最近の動きとしては、西武デパート跡地を再開発事業でマンションと一部商業施設をつくるということで、来年度完成を目指している。
- 中央通りのD北街区では、再開発準備組合ができ、ようやく動きが出てきて、再開発ビルの建築に向けて取り組んでいる。
- 市では、空き店舗に出店する際の費用を支援する「新規出店サポート事業補助金」を設けている。積極的にPRに努めていきたい。

委員

- ・ 再開発ビルとか新しいものを建ててしまうと家賃がすごく高くなるので、なかなか新しいことにチャレンジしようという方向にはならない。

- ・ 現状の大きさをどのようにリノベーションしていくのか、というところに注目したほうが面白い展開になるのではないかと。

委員

- ・ 大事なものは、その人達をどうやって東京から確保してくるのかという策である。
- ・ 確保に関する策がないので、実行面・実践面でのやり方が見えない。
- ・ 企業の力でやっていくとなると、大企業は力があるが、中堅、中小企業はできるか疑問である。
- ・ 人の流れをどう作り出すかということで、今、求職者が減っている中で、どうやってハローワークに来てもらい、求人を充足させるかを一生懸命考えているので、斬新で経済効果のある取り組みには協力していきたい。

委員

- ・ 今回の話は、富山の負担なく進めるべきだと思っている。
- ・ 大企業で、次の働き場所を探している、あるいは雇用延長をしながら東京にいる人を、富山のために働いてもらう仕組みとし、企業にはインセンティブを付与する。
- ・ 制度設計が大事であり、既存の施策で十分できると思う。
- ・ いろんな省庁でリモートワークやセカンドキャリアなどがあるので、それらを組み合わせることで可能だと思う。

事務局（商工労働部）

- 65歳以上ということで線を引いているが、市では、スーパーシニア人材バンクを設置し、今年の8月から活動している。
- まだマッチングには至っていないが、企業10社、65歳以上のシニアといわれる方、技能を持った方16人を登録している。

委員

- ・ 11ページの「若年者の就職支援」について、企業説明会の参加者数について650人を指すという目標になっているが、これは無理ではないかと思う。
- ・ 21ページの「雇用環境の改善促進」について、訪問した企業のいいところ等について、市のホームページに掲載するなどにより広報、情報提供しているか。
- ・ 労働局では、全国の人が見られるようにしているので、そういうことをハローワークと一緒にやってきたらいいと思う。